

福音の園®だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞

TBSラジオ「メイ」のいきいきモーニング」取材紹介

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局

☎049-230-1111 (FAX)230-1112

福音の園®、Gospelgarden®は 有限会社シャロンの商標

二〇一四年を迎えて 理念・方針説明

目指すのは「1位の表彰台」

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
西暦二〇〇〇年に「介護保険制度」が始まった。

この時を、私は「社会福祉法人の大型施設」で迎えた。その数年前から、「外部研修講師」が「福祉業界と云えども市場原理の寒風に晒さらされます。(今なら小動物虐待となるが)カエルは熱湯の中へ放り込まれたらすぐに飛び出す。ところが、真水の中のカエルは少しずつ直火で熱しられても、熱さにマヒし慣れちゃって、ついに「…」の論調で警告されていた。一三年が経った。「利用者(家族)本位の基本理念」に基づき、「保護し収容する大型施設介護」から、「住み慣れた自宅で最期まで介護」へと移行している。

「営業努力(向上心)」「がまこと」にある現実

『県内では特養の待機者が4月時点で1万5000人

おり、空きはない。待機者は多い施設で500人を超す。介護度を調べ、優先すべき人から入居を決めている。』(2013.12.6付 読売新聞「埼玉版」)。この困窮実態は、

視点を変えれば、「数百人と云う待機者を順次選んで入居させる経営は、次第に営業努力やノウハウを積む市場感覚(向上心)をマヒさせていく」と分析される。「施設から自宅へ」と進む中、求められる「地域密着型サービスへの事業展開」を及び腰にさせる。

表彰台の1位は「小規模多機能型居宅介護」

高齢者福祉の世界に飛び込んで23年。「社会福祉法人の大型施設」で13年。現在「地域密着型グループホーム」で11年目を迎えた。施設間の違いをオリンピックの表彰台に例えたなら、3位が「社会福祉法人の大型施設」。2位が「地域密着型グループホーム」。1位は「小規模多機能型居宅介護」となる。理由は、①「施設から自宅へ」では少人数グループホームも「やっぱり施設だから」。②「最も高い営業力・センスが要求される介護サービス事業だから」。川越市内に「小規模多機能型介護施設」はわずか。何故か? 「地域住民の元へ出て行き、地域に密着した“お顔の見える”関係作り」という裏付けが取れない為に不安(採算面)で手が出せない。結果、小規模多機能型介護施設が増えていかない(人気がない)。

原点「近所の声・つぶやき」に聴く

本誌第一〇四号に『福祉のよろずやになりたい』と題し、長野県伊那市での「施設見学と研修」レポートを掲載した。マグロの解体ショー等鮮魚を目玉に、近隣市町村からも集客していた大型スーパーが店仕舞い。地域の人達が惣菜や食品類の買い物にも不便を覚えていた。これを民間介護事業者が「地域

住民の必要を一気に事業化」。大型スーパー店舗看板を『〇〇町いきいきふれあいプラザ』と塗り替えた。

広い店舗を「宅幼老所・有料ホーム・サロン・コインランドリー・接骨院・配食お惣菜店・カフェ&バー・他」へ改築。「地域に密着」した事業を展開中。

民間介護事業者・資料には『理念II 地域に根ざした利用者本位のサービスの提供。(中略) 私たちはこの町の福祉のよろずやになりたい。』『経営理念II 損して得とれ 後から必ず人・物・金はついてくる。』事業所「ロゴマーク」下には「つぶやきに聴えたい」とあった。ここに「近所の声(つぶやき)」に耳を傾けた「地域密着型サービス事業者の原点」を観た。

傍かたわらに寄り添う介護サービスを指して

高齢者福祉に就く前、私は「牧師」だった。「顔と顔とを合わせた」地域密着型介護サービス事業者の「職業倫理と福音(聖書)に基づいたまなざし」でサービスを必要とする人の傍らに立つ者とされたい。

【註】小規模多機能型居宅介護は、介護保険サービスの一つです。料金は、サービスの量に関わらず、定額制(月額)です。サービス概要: 「通い」を中心に、ご本人の様態や希望に応じて、「宿泊」「訪問」といったサービスを組み合わせて、「自宅で継続して生活するため」に必要な支援を行います。「通い」で顔馴染みになった職員が「宿泊」や「訪問」の際にも対応します。

御礼

寄贈・来客用スリッパ S・S様

新年おめでとうございます

迎えました2014年も、確かな支援技術に基づいた「優しさ」と、福音に基づいた「希望」をお届けできる
ように専心してまいります。**福音の園・川越 職員一同**